

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス豊見城教室 4号館		
○保護者評価実施期間	令和8年3月1日		令和8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○従業者評価実施期間	令和8年3月1日		令和8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○訪問先施設評価実施期間	令和8年3月1日		令和8年3月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問支援では、子どもの特性やニーズを丁寧に捉えながら、訪問先施設と連携し、具体性のある支援を行っている。また、保護者との継続的な情報共有を通して、安定した支援体制が維持されている点が強みである。	支援にあたっては、日々の観察や記録をもとにこどもの変化を丁寧に捉え、支援内容に反映させている。また、訪問先施設や保護者との情報共有を継続することで、支援の方向性にずれが生じないよう意識している。	今後は、事例共有や振り返りの機会をさらに充実させ、支援の質を継続的に高めていく。また、専門的知見の習得や情報収集を通して視点を広げ、実践に活かしていく取組を重ねていく。
2	訪問支援の実践を重ねる中で経験が蓄積され、それが訪問先施設や保護者からの信頼につながっている。こどもの特性やニーズを丁寧に把握し、具体性のある支援を行う姿勢が評価されており、支援の質を保ちながら改善を重ねる取組が定着している点が強みである。	支援の振り返りを継続的に行い、現場で得られた気づきを次の支援に活かすよう努めている。また、訪問先施設や保護者からの意見も参考にしながら、支援内容の妥当性を確認し、必要に応じて調整を行っている。	今後は、事例の共有や検討の機会をより充実させ、実践の質を一層高めていく。また、訪問先施設との連携をさらに深めながら、多様な状況に柔軟に対応できる支援体制を整えていく。
3	チーム内での情報共有と協働を大切にしながら、支援員それぞれの知識や経験を活かし、事業所全体としての支援力の向上につなげている。	定期的に支援内容の共有や振り返りの機会を設け、複数の視点からこどもの状況を確認している。また、支援員同士が相談しやすい環境を整えることで、個々の判断に偏らない支援を心がけている。	今後は、支援事例の共有をさらに深めるとともに、外部の情報や知見も取り入れながら、チーム全体の視野を広げていく。また、協働の質を高めることで、より安定した支援体制の維持につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援員の経験やスキルには差があり、その違いが支援の組み立て方や対応の深まりに影響する場面がある。対応の水準を安定して保つための工夫が、今後も求められる。	支援員それぞれのこれまでの経験や専門性の違いが、支援の視点や判断に影響することがある。また、現場ごとに状況が異なるため、実践の積み重ね方にも個人差が生じやすいことが要因の一つと考えられる。	定期的な振り返りや意見交換の機会を設け、支援の考え方や視点をすり合わせていく。また、経験の浅い支援員に対しては、日々の実践の中で具体的な助言や確認を行いながら、支援の安定につなげていく。
2	訪問先ごとに異なるニーズや日程に対応する必要があり、調整業務が複雑になりやすい。その影響で、支援の計画や実施において円滑さを欠く場面が生じることがある。	訪問支援は、各施設の教育活動や行事等に合わせて実施する必要があり、調整の幅が広がる傾向がある。また、急な予定変更が生じることもあり、計画の見直し求められる場面がある。	訪問先との事前確認をより丁寧にを行うとともに、情報共有の方法を工夫しながら調整の精度を高めていく。また、想定される変更にも柔軟に対応できるよう、余裕を持った計画づくりを心がけていく。
3	保護者との情報共有が十分とは言えない場面があり、支援内容への理解や意見を丁寧に受け取る機会に課題が残っている。そのことが、支援計画やサービスの質の向上に十分に活かしきれない可能性がある。	訪問支援は主に施設内での実践を軸としているため、保護者との接点が限定的になりやすい。また、情報伝達が報告中心となる傾向があり、双方向の対話を十分に確保できていないことが要因の一つと考えられる。	保護者が参加しやすい形で、支援に関する話し合いや情報共有の機会を確実に設けていく。日常的な会話や交流を通して支援の方向性を共有し、保護者の負担に配慮しながら、ニーズに応じた対応を進める。また、支援員が保護者の声を丁寧に受け止めることで信頼関係を深め、支援の質の向上につなげていく。